

# 五行の旺

四季の変化に伴って、五行は旺おつと言われる変遷へんせんをたどる。旺とは、その季節をつかさどる五行が最も質的に充実している状態であることを表す言葉である。

春には、木が旺じる。

夏には、火が旺じる。

秋には、金が旺じる。

冬には、水が旺じる。

そして、季節の替わり目の前には、土が旺じる。

とされている。季節の替わり目とは、立春、立夏、立秋、立冬の前の約十八日間のこと、夏になる前の十八日間、秋になる前の十八日間、冬になる前の十八日間、そして、春になる前の十八日間土が旺じることになる。

『理科年表』には、土用（子平では、土旺と言うことが多い）という名称で表示され、四立の前の黄経上18度の期

間として定義されている。

また、節月と旺の関係を示すと、次のようになる。

春 寅・卯・辰月は、木が旺じる。

ただし、辰月の後半の約18日間は土旺となる。

夏 巳・午・未月は、火が旺じる。

ただし、未月の後半の約18日間は土旺となる。

秋 申・酉・戌月は、金が旺じる。

ただし、戌月の後半の約18日間は土旺となる。

冬 亥・子・丑月は、水が旺じる。

ただし、丑月の後半の約18日間は土旺となる。

以上をわかりやすく図示すると次のようになる。



(フレームの同じボタンをクリックしてください。)

暦の上では、土用は年四回あるが、未月（七月）の土旺のみが、丑うなぎの日に鰻を食べることから広く知られている。

この五行と四季の関連については、秦の時代（紀元前三世紀頃）に成立したとされている『呂氏春秋』中の「十二紀」にある記述が、現存するものの中では最も古いようである。

ある。

旺は、五行の作用を評価する上で大変重要な概念である。  
しかし、日本における四柱推命で、旺について触れている  
ものは皆無に等しい。

最終更新  
2000・1・16

「五行の旺」